

令和7年度

国府中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎基本の定着を図る分かりやすい授業の実施
- ② 基礎学力の向上のため、家庭学習の定着
- ③ 認め合い、話し合い、学びあう授業の実践

校長

澤口 博之

学力向上推進員

推進員: 多田 真悠 若槻晃太郎  
校長: 澤口博之 教頭: 吉本真由美 江東克彦  
教務: 岡本裕志 研修主任: 和田由佳  
教科主任: 藤村義之 三谷あおい 小山祐貴 篠原明子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○各教科の基本的な知識を習得できている生徒が多い。</p> <p>○予習・復習を行い、課題提出のルールを守る生徒が多い。</p> <p>●生徒によって基礎知識や計算・漢字などの技能が十分に定着していない。</p> <p>●家庭学習や計画的な学習習慣が身につけていない生徒がいる。</p> <p>●既習事項の応用や発展問題への取り組みが難しい状況である。</p>	<p>・計算や漢字などの基本技能を身につけ、知識を活かして新たな課題に気づくことができる。</p> <p>・学校と家庭の学びを結び、計画的かつ継続的な学習習慣を身につけることができる。</p> <p>・自信を持って意見を発信し、仲間との議論や協働を通じて相互に学び合うことができる。</p>	<p>・視覚的・体験的な教材を活用し、段階的な確認や小テストで生徒一人ひとりの理解を丁寧にサポートする。</p> <p>・生徒が自ら学習計画を立てる支援と、具体的な家庭学習の方法提示、保護者との連携を通じて自立学習を促進する。</p> <p>・話し合いや発表を取り入れ、生徒同士が意見交換を行いながら「なぜそうなるのか」を追求し、知識の応用や連携を図る。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○数学や理科では、複数の解法を模索し、筋道を立てて自分なりの結論を導くことができる生徒がいる。</p> <p>○文章や口頭、ICTなど多様な手段で自分の考えを伝える能力が向上している。</p> <p>○グループ活動などで情報整理や適切な判断ができ、議論を通じた学びが進んでいる。</p> <p>●一つの解答に固執し、新しい視点やアプローチを試みるのが難しい生徒がいる。</p> <p>●選択の理由を明確に説明する力が不足し、「なんとなく」に頼る傾向がある。</p> <p>●自分の考えを整理する方法が十分に活用できず、発表や議論に苦手意識が見られる。</p>	<p>・問題に対して柔軟な発想と論理的思考を駆使し、複数の解決策を導き、得た情報を整理して適切な判断ができる。</p> <p>・自分の選択や意見の根拠を明確に言語化し、論理的に組み立てた文章や口頭で表現できる。</p> <p>・自信をもって意見を発表し、他者の意見を尊重しながら議論に参加できる。</p>	<p>・多様なアプローチを活用し、一つの問題に対して複数の解決策を模索する授業を展開し、実験やシミュレーションで試行錯誤を促す。</p> <p>・深掘りする問いかけや資料・データ分析を取り入れ、論理的な思考力と情報整理能力を養う。</p> <p>・口頭発表やポスター、映像制作など多様な発表機会とグループ学習を通して、生徒が自信を持って意見交換できる環境を整える。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○授業中に集中して取り組み、ノート整理や早着席、授業準備など自己管理ができる。</p> <p>○教員の問いかけに反応し、グループやペア活動を通して自発的に参加できる。</p> <p>○課題の提出期限を守り、計画的に学習を進める習慣が形成されつつある。</p> <p>●自ら質問したり、学習方法を工夫する自発性が十分に発揮できない。</p> <p>●家庭学習の継続や学習計画の立案が不十分で、目的意識が弱く受け身になりがちである。</p> <p>●話し合いの場面で自分の意見を積極的に発信し、他者の視点を取り入れて考えを深化化させることができない。</p>	<p>・授業や家庭学習に積極的に取り組み、自ら課題を発見し、解決のために工夫することができる。</p> <p>・自分で学習計画を立て、目的意識をもちながら振り返りを行い、学習の質を向上させることができる。</p> <p>・話し合いや発表の場面で自信をもって意見を伝え、他者の意見を取り入れて新たな考えを導くことができる。</p>	<p>・探究的学習活動を導入し、興味を引く課題設定や実験、体験学習を通して生徒が自ら調べ考える機会を増やす。</p> <p>・生徒自身に学習内容や目標を設定させ、振り返りや学習計画の立案を指導する。</p> <p>・対話型授業を推進し、グループワークやディスカッション、発表活動を通して意見交換や表現力を高める機会を設ける。</p> <p>・家庭学習との連携を図り、具体的な学習方法の提示や振り返りシートの活用で学びを客観的に捉える習慣を育む。</p>			